

阪神・淡路大震災の教訓の再整理

1 目的

兵庫県が行った復興10年総括検証（平成15～16年度）を基本に、阪神・淡路大震災復興フォローアップ委員会での意見を踏まえて、阪神・淡路大震災の重要な教訓項目を抽出し、その後の自然災害での状況も踏まえ、教訓の全体像について再整理し、多くの人に分かりやすく発信する。

2 整理の仕方

- (1) 被災者の関心事の推移に着目し、4つの切り口と10の柱を設定
- (2) 10の柱ごとに重要な教訓項目を抽出（全体で100項目）
- (3) 各教訓項目を「何があったか」「学んだこと」「教訓をどう生かすか」に分けてわかりやすく整理

切り口	10の柱
いのち	(1) 命を守ること、命を救うことの大切さ
暮らす	(2) 生活拠点となる住まいの確保 (3) 生活資金、心身の健康、生きがいなどのくらしの回復 (4) 地域経済の復興としごとの確保
創る	(5) 人をつなぎ互いを助ける地域コミュニティ (6) 住民が主体となり、地域の特性を生かしたまちづくり (7) 災害時に対応できる人材の育成
支える	(8) 平時からの危機管理体制の構築 (9) 被災地の主体的な復興を支える社会制度の整備 (10) 公民協働の新しい社会システムの構築

